

# 令和3年度自然保育推進事業 活動報告書

1、 認定こども園 広島高陽学園

2、 今年度の活動概要

(1) 環境構成に関すること

本園は緑に囲まれ、時折鹿の親子が姿を見せたりする自然豊かな環境の中に園舎があります。園舎の向かい側には広いグラウンドや森があり、田んぼや菜園では子ども達は毎年米作りの体験をしたり、野菜の栽培をしたりしています。子ども達は四季の移り変わりを感じながらのびのびと遊んでいます。

(2) 特に印象的だった遊びの事例に関すること

【 ピカピカどんぐりを作ろう 年少児（3～4歳児） 10月～11月 】

秋になるとグラウンドの山にはどんぐりや葉っぱがたくさん落ちてきます。  
子ども達は秋の自然の遊びを楽しみました。



(緑色のどんぐり)

子ども達 「先生、どんぐり拾ったよ。」「緑色のどんぐりがあるね。」

保育者 「本当だね。色々などんぐりがあるね。」

子ども達 「どんぐりで何して遊ぶ？」

保育者 「ここで転がしてみる？どんぐりころころ競争しよう。」

子ども達 「うん。しよう。しよう。」

どんぐりころころ競争をして遊んでいました。



(どんぐり転がし)

少しして、A君がどんぐりがぴかぴかになる事に気が付きました。

A君 「このどんぐりピカピカになってるよ。」

B君 「どうしたらピカピカになるのかな？」

手でこすっている子どもがいます。一人の子どもがズボンでどんぐりをこすりました。

C君 「先生、ズボンでこするともっとピカピカになるよ。」

保育者 「すごい。発見だね。色々な物でこするとピカピカになるんだね。」



A君 B君 「面白い！」

A君 「このどんぐりもピカピカになるかな？」

B君 C君 「たくさんどんぐりを集めてこすってみよう。」

色々な種類のどんぐりを拾い集めて手やハンカチ、服を使ってこすっていました。



(ぴかぴかどんぐり作り)

子ども達のピカピカどんぐり作りは何日も遊びが続きました。

※高陽学園の森には「あらかし」「コナラ」「あべまき」「シリーブカガシ」など4種類のどんぐりの木があります。「あべまき」と「シリーブカガシ」はピカピカになり、1番ピカピカになるどんぐりは「シリーブカガシ」でした。



## 活動内容【 生き物の観察 】年中児（4～5才児）

ねらい・自然の中で新しい発見を見つけ、みんなと伝えあい知識を深める。

### ◎おたまじゃくしの観察

田んぼでおたまじゃくしとカエルを見つけた子ども達。  
おたまじゃくしを捕まえてカエルになるまでの観察をしました。



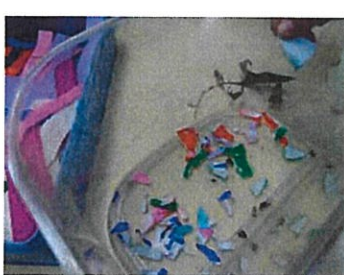
「おたまじゃくしがいっぱいおるよ!」「カエルが手に乗ってきたー!!」「手が出てきたねー」 「先生!カエルになっとるよ!!」  
「どうやったらつかまえられるかな?」「すごい!!飛んできた!!」 「おたまじゃくしは何を食べるかな?」 「かわいいね」

### ◎ミノムシの観察

グラウンドに行く歩道橋を渡っているときに見つけたミノムシを捕まえて観察しました。蓑から出して、蓑づくりの観察をすることにしました。

2匹見つけて観察をしようとしたのですが、1匹は蓑の中でハエの幼虫に食べられて死んでおり、「かわいそう」という声が聞かれました。

子どもたちと観察をしながらインターネットで調べてみると、ミノムシはだんだん数が減り、いなくなっていることが分かりました。



「ミノムシかわいいね。」  
「ももぞ動いてる。」

「硬い糸でぎゅっとなってる。」  
「全然壊れんよ。」

「折り紙で服作るかな?」  
「葉っぱがいいのかな?」

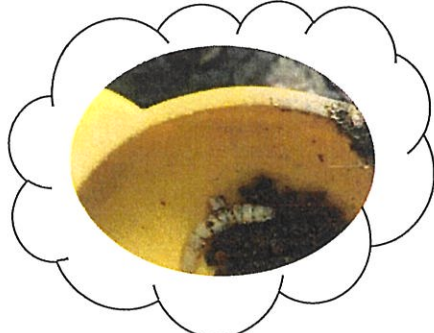
「折り紙がくっついてる!!」  
「糸が見えるよ!!」

### ◎幼虫の観察

グラウンドであそんでいるときに幼虫を見つけました。



「先生、これなんの幼虫?」



その場ですぐにインターネットで調べ「ゴミムシダマシ」の幼虫と特徴が似ていることが分かりました!

### <まとめ>

グラウンドでのあそびや園外さんぽ、また田畑での観察など自然に触れる時間を十分に取ることができ、1年を通して様々な生き物に触れることができました。

その中で新しい発見や疑問を見つける子ども達の姿を見ることができました。自然の中での活動を通して心身ともにたくましく、また新しい知識を身に付けられたように感じます。



◎活動内容 米作り、自然の中で遊ぶ 年長組（5～6歳児）

ねらい：お米作りを体験し、お米が出来るまでの過程に関心を持ち、収穫する喜びを味わう。

【田づくり（5月）】



田植えの準備として、田んぼの土を子どもたちの足で踏みならし、柔らかくしました。初めての田んぼの泥の感触に「柔らかくて、気持ちがいいー！」と喜んでいました。

【田植え（6月）】



苗を見て、「小さい！」「折れそう！」と言って植えていた子どもたちも2回目には慣れたのか、しっかり持って田んぼに植えることが出来ました。

【稲の観察（6月～10月）】



田んぼにオタマジャクシやアメンボなどの小さな生き物が出てきました。オタマジャクシに触ったり、他に生き物がないか探したりしている様子が見られました。

【稲刈り（10月）】



鎌の使い方の話を聞いて、自分で鎌を持って稲を刈ることが出来ました。初めは難しそうでしたが、2回目にはスムーズに刈ることが出来ました。刈り取った稲を見て満足そうな表情でした！刈った稲は、10束ずつにまとめてはでに干して天日干しにしました。

【脱穀（11月）】



脱穀・精米の機械に子どもたちは興味をもって見ていました。「白いお米になった！」「緑色のお米も混じっているよ！」「これはもう食べられるの？」と興味津々で見っていました。地域のおじさんが、粳つきのお米・玄米・精米を持ってきて下さり、見たり触ったりして脱穀後のお米、玄米、精米したお米の違いを感じることができました。

【おむすびづくり（12月）】



自分でにぎっておむすびを作りました。「三角にしたい！」「私は丸くする！」など好きな形ににぎっていただきました。好きな具を入れて大きな口でぱくっ！自分たちで苗を植えてできたお米にとっても満足そうな笑顔でした♪

◎季節を感じて

春夏秋冬の季節を通してそれぞれの季節を感じながら、遊びました。下記は春と冬についてです。

ねらい：五感で自然を感じ、その美しさや不思議さに気づく。

【春：地球の遊びカード（地球の宝物を見つけよう！）】



グラウンドの山を探検して、春の自然見つけをしました。見つけたら、クーパーで丸をつけました。草木のにおいを嗅いだり、触ったりして体で自然を感じることができました。「これは何の葉っぱだろう？」「この葉っぱのにおい好き！」など疑問や自分の思いを伝え合って楽しみました。

【冬：雪遊び】



降り積もった雪を喜び、雪合戦をしたり、雪だるまや雪でお団子を作ったりして楽しんでいる姿が見られました。雪を触って、「冷たい！」「触っていたら溶けちゃった。」「ずっと触っていたら手が痛くなっちゃった！」など色々な発見をして楽しんでいました。また、天気予報を調べて前日から牛乳パックに水を入れて外に置いておき、氷づくりをしました。氷を見て、「何で白い所と透明の所があるんだろう？」と興味をもって見ている姿が見られました。

（氷づくりの様子→）

